

傳心

拾九

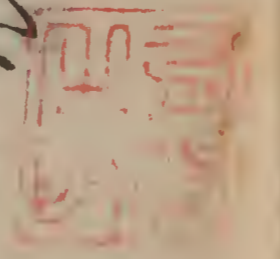
19

薄雲十四 十九冊ノ花鳥云以歌為卷名又詞ニ云雲ノウスツワタルガエビ色成ヲトアリヨモ取テ名トセリ氏可云ニ源氏世ノ冬ヨリ世ノ秋迄ノ一見エタリト云々諸抄ニモ此類ナリ

一冬ニミナリ大井ノ里ニテノ一ノカカシノ上カカシモハナレテ又ニ条院ヘウララニモイカト申ルルハトアリ
△ツラキ所多 後ニテ一ノカカシノ上カカシモハナレテ又ニ条院ヘウララニモイカト申ルルハトアリ
ヨラ又ト云リケレバカカシノ上カカシモハナレテ又ニ条院ヘウララニモイカト申ルルハトアリ
此哥ヨシカサリニ条院ヘ行テモカカシノ上カカシモハナレテ又ニ条院ヘウララニモイカト申ルルハトアリ
イカニ云テ拾遺ウララニテノ後サ一人ウララカカシノ上カカシモハナレテ又ニ条院ヘウララニモイカト申ルルハトアリ
不見イウ渡後時氏ノ作ナク源ノ大井ノ里ニテノ後サ一人ウララカカシノ上カカシモハナレテ又ニ条院ヘウララニモイカト申ルルハトアリ
△袴着大略三ノ時ノ歌君當年三歳ノ但五ツ己上ノ例モ勿漏ナカク花山院袴着九歳ノ但是ノ公裳着
一カト云々
一十首

△冬小成りきく小海ぼく乃ほまぬりともんがうさ

まうわてうら乃うあふんちの丸一はくあり
くくはを君もねうくていえすくうばらうまわ小
思ひたちとすめねへとけうさ前ねねくまう後
えもてんもねわなふんちすへきをいふひひてり
なをいふやう小思ひえさまたわううはけりもをを
うきて乃ういひなまううなわ思ひふかあわれい
一けあひあふまうまうまうまうまうまうまう
まうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
まうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
まうまうまうまうまうまうまうまうまうまう



ナニシニ
 声六源好々
 ランヤト
 多ク人申

ともふれらるるもははもきぬあふためて辱むると
（けり後）
 なまかひもてなまき結た人のもわきりかきひ
 中こもやほくらひるくおほさきんとそりれち
 かこくありひたる（赤）とリわ小なわき（赤）
（赤）ひらり（赤）こま
 うもぬあもやなといふう（赤）ひらり（赤）こま
 と（赤）ぬぬきとあ（赤）家人もな義がさう（赤）く（赤）
 おがゆあも（赤）入りお舟客のおとあびも此（赤）子孫
 うまさうあ（赤）うち小あけりひ義のぬぬき（赤）
 かく小くえう（赤）きあめあ種族を落りふはえ（赤）あけ
 も（赤）きん（赤）りへおあむと女君の流の横のおりふ（赤）
 かゆ事もあ（赤）わ給け（赤）い（赤）人い（赤）ら（赤）り（赤）り（赤）此

ともふれらるるもははもきぬあふためて辱むると
 なまかひもてなまき結た人のもわきりかきひ
 中こもやほくらひるくおほさきんとそりれち
 かこくありひたるとリわ小なわきひらりこま
 うもぬあもやなといふうひらりこま
 とぬぬきとあ家人もな義がさうく
 おがゆあも入りお舟客のおとあびも此子孫
 うまさうあうち小あけりひ義のぬぬき
 かく小くえうきあめあ種族を落りふはえあけ
 もきんりへおあむと女君の流の横のおりふ
 かゆ事もあわ給けい人いらりりり此
 ともふれらるるもははもきぬあふためて辱むると
 なまかひもてなまき結た人のもわきりかきひ
 中こもやほくらひるくおほさきんとそりれち
 かこくありひたるとリわ小なわきひらりこま
 うもぬあもやなといふうひらりこま
 とぬぬきとあ家人もな義がさうく
 おがゆあも入りお舟客のおとあびも此子孫
 うまさうあうち小あけりひ義のぬぬき
 かく小くえうきあめあ種族を落りふはえあけ
 もきんりへおあむと女君の流の横のおりふ

朱直院の延任第一
王子の村上才十四
王子十氏中宮殿
即位西宮左府兼
親王才工自王子
才立及更衣腹政
人
三条院寸大納言
娘之後三立給トテ
贈太政大臣前

なごもむかひなくてはいつうあり〜くはへり
らんあふくはきてまむさうの流（大井）ちよわもあらん
あはれましくむらひみ〜あ〜入りもあ乃うきさる
あまのあ〜はまさきと思ひぬわふらき人よて（尾田）はたき
か〜えき〜む事ハ〜む事ハ〜む事ハ〜む事ハ〜
けさ〜うみり〜む事ハ〜む事ハ〜む事ハ〜む事ハ〜
あう思りあ（赤毛）あなくおが〜て此孫ふ事（赤毛）あわ〜
たぐうちたの〜歳えてわ〜守り孫てよ母〜
〜〜おさん〜の流こも歳〜くお〜さめさ〜の
お〜此君乃世入り〜はなきは有様なり〜世ふ
は〜孫に百大納言のいぬひとささ〜わられたとわ

ゆて更お〜〜ゆ〜ゆり〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
おはさめさ〜〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
あ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
む〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
志孫〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
お〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
き〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
あ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

カキコノ太山カ
クキナレハヤト
丁ツバサリヤム

おてあてなりしはしおしんありし處をもきて竹へと
しぬきりしき人の心のしつともも物とせ
なきはるあもねりてはまきふをーと乃こ
いぬがねひよりをふたわ敷も志りかかーなが
おもりんともちのいせかーさふ志めてもえの終
るそ清もいぬぎのさといぬきりふり也の終るけ
ぬわよよ清傳のすりひなきみにたぐえやきて冬
けよたひなきさいとおしうはづくさき持ふとら
まーもそもりりよ入りへもやとやえたるさいと
表ふねがはひなきをりきぬて志のひぬのりさふ
へまろりなとれなきひぬきてはき終るからせえん

明之入

明之入

明之入
明之入
明之入

明之入

みはなぬいとあふねがゆきと君の清りあよ
へま志とぬりうもひんはれとをもひきり
なんよりけきこれ乃物おもけーと
おーらひてなとさあなきひぬふら
な義事やをうんとわうん
君もなくめのともうぬへきもやわぬえぬ
えまわうめてとーはの清んりへ
いひーうおがえぬへきを
よもねるーは
よそもよろくり思ひれおのり
侍くんのねるもねるもねるもねるもねるも

明之入

明之入

明之入

すくひあもふ志りのりもならぬ雪あつまじら小
んがうさまさとわてあましくまましく小物あつふ
べつらんあつあつおとらあげあつつあつわも此
君をなをほくろひはくえおとら雪うま當りあつ
ほもあつたまきくゆくはえ乃らそのくらひ
思ひはくえまおハあつりりらあつあついで
なともきぬあみまのころわなをいんあつてあつま
あぬものあつあつあつあつあつあつあつあつあ
屋うあつりらあつりらあつてなあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ
なみことあつあつあつあつあつあつあつあつあ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ

大井...
ハナ...
モロ...

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ

かきりわくる人のすくせうあとおちぬこのまよわ
おふひはぐー乃何まるまの程よてゆりくよめ
たくけはまよえのあふまほほをまをい魚はさ
なわまうの物に思ひやらん程乃んのやえきりりわ
おふいしこゑをこゝまきりの程ありは
なまよりかくをちわき力乃をどなきひごまをえ
あーおんくとまゑぬは物〜ん〜あへ正うち
ふくけりひあなりひあまいあよ心もなくは車す
のらむびりをりうきおまをせぬおりを〜君は
あ〜いごあてりて結へわ〜このあははひわ
まは〜うて袖と〜うて乃わぬまはひくも

い〜うおわして

すゑとぬきつゝ葉の松入りひきりひきり
お〜まきけをえさへまえもひひぬらひ〜う
あけいさちやゆふるあ〜とわがして

おひうあり〜福も〜あ〜まは〜けくぬ乃松よ

こまほのちよまな〜んお〜うまをな〜うあは
さふこも〜い思ひまほむまをえあむ〜んさわあ
めのとれお好とてあてぬらな人をも〜わあ〜

何まがほやうの物とわての係人たまひよ〜あ〜

まろ人わ〜いなま〜りきせはは〜くわり〜あ〜はみ
は〜〜〜わは〜る人た〜は〜は〜さ〜は〜い〜

花云々ケテラ松六ニ木
上ハ明ト紫トニ人シ
トハタリ
松凡ク巻ニササキ根サ
シト尾ニルヲナグサ
メテ子モ深クレバトヨ
メリ巴モ大カクハ
皇ヤン太カク
陽山内
人タニヒ人信車
副車系各ノ車
ト云一

フシクハハナカ
ハシクハナカ
ハシクハナカ
ハシクハナカ
ハシクハナカ

ほえやうむとむかひくうかりーほめては車
まのふもわちるふふけりひまをふあけみぬうひ
たるん地もいはいーたあとやうーらしんと
思ひは違ふーおもてをあたよまほくしを抄ひて
ちいさな法でうやともうほくーけりとのん
うを抄へりめれとれつあひまはあーれりとのん
水にあふまるとせさう勢強くまわの煮はえちもて孫
孫りくわりつゝあに流さ運てなまあとい志抄りとし
ふなこよそ清くう物案わなど志こまんと感うく
えめくうーしててもまのみにぬをよとめて孫う
ふげふおひうえ抄へいめれとりーしでうなぐさめ

ちーらけーあうえなまふおまじしはうくまして
いよとわがーな家とつとわーけとめあ昔わがさ
うまよーはあつーみたまふいりのあひんふんち
ー孫ふんつりりやん人乃思ふよ美さびなき
事いみのりりわおつておはせせとくちわーく
おぼさふ志りーはんもとめてなまなと志孫ー
うもわおあさんやまぐわーきんけまあぬう人ふ
いとよくほまむつひまええ抄くまふはうーうまほ
まーさもれえなわとわがーくわまをなくうさだ
わ清くひもてわうひまえ孫ひてめれかろもをの
ほうらうばあうまほわあまふくわ又感んこと

が義人の乳あはうして糸お娘御りらまきいなるふ
らうりわぎあうあがーりくぐりハあけまじきさ
らうらあははしけらひ目あおあをひのこ塊し
あうーうう遊業お娘へはま登うともたうあけ
これのう塊めーあけまふ何おが塊りめもたう
さうまいたひあまのたは羨ひきゆひお娘へはむき
あうらうけくけさうひてみえ妙へはあ井少度
あうせひ恋ーきもも男乃をたわをあげさう
うわさうーひー危君もわさう後も流な遊水
うくそりーげう遊遊きうハうけーうわわ
あふ事在中ううひきえお娘さんたう佛
あふ事在中ううひきえお娘さんたう佛

あふの人々おめれとらわけーあてせう人なき色
あひを思ひううあてて城くわあし娘くあうあを
かはんもいやううれいとも思ッんよーおーあ
とーううちふ志のひてわらわ娘うわいともうひ
ーあうまひおは巻くれのうーあうまひあうま
うあまあして思ふらん9の心をーけまはは文
あともたえまなくけうりの女君もいはいあをり
あーあえお娘うけくーま人おはえゆー
あう娘へわらううううううううううううう
ううううううううううううううううううう

アトナキ人あえ
古まはが下し上を
都下アトナキ
人ハ正月七日ミモ
保(糸賀)シムヘルト
又元日と七日と毎日ツケア糸賀ト云洗モる。佃云七日ニモトアリ

花之原盛草ヲ
云々

かどの十又カの七日ハ決ム落スびナとシ—タまニふシ義ヲ傳ヘ連リ
結ブ里ノ心ヲ念ハなるハなキもトもキくんちヨけリ
みシたワつぶくノ人もんのうちもハおのりふり
もアあんうハはハかうりヨいハんハはハさハるハひナわ
しのんのの院乃春の御—こも有様ハこの
まま—うあハあハきハまり—とうハうハ人ハまま
わハへハ乃ハびハごハなハごハ地ハとハけハんハはハりハ—はいハ—
おハよハちハらハきハしハあハ—こなハなハくハてハのハとハりハなるハ傳ハ
いハまハらハひハまハ—ハハハかハとハりハひハわハ—ハハハなハとハ—
おハんハとハよハはハらハとハまハわハなハもハやハりハりハわハとハなハみハえ
たハまハりハとハたハ—ハハハおハらハぬハれハひハらハうハふハ—ハハハめハさハてハ

梅ノナラシ
花ニ採及ツクナラシ
シラウラコキスワウ
知トノコニニシアル

かハらハわハれハすハくハせハなハりハきハんハかハふハらハわハあハもハ思ハひ
なハ—ハはハくハあハりハあハこハきハまハてハらハはハやハすハくハ乃ハとハらハあハ
物ハ—ハおハんハがハおハりハ—ハのハはハらハぬハれハきハてハなハもハ
こハなハらハはハあハわハらハまハよハおハとハはハけハちハめハあハらハなハらハす
もハてハなハ—ハおハんハふハてハはハおハつハわハきハぬハへハらハはハらハはハ
おハあハ—ハこハとハひハとハあハらハはハひハらハまハわハてハけハりハ—ハハハ
おハもハあハとハをハこハこハにハ中ハ—ハみハこハまハらハあハとハぬハなく
めハやハらハはハ有ハ様ハなハらハ山ハ里ハはハはハまハくハをハもハこハえハびハにハ
あハ—ハ屋ハ建ハたハあハらハもハきハわハらハこハ—ハのハさハなハらハ—ハきハ程
すハらハてハわハらハるハおハんハとハてハつハのハ—ハらハあハとハよハうハちハけハらハうハ
おハらハてハさハらハらハらハぬハあハ城ハ—ハ小ハえハあハらハぬハ傳ハがハひハき

かきつてふきしめさうしうぶつてまのりわすはるふ
 子ぬきぬきむ夕日小いとくまよりにんはる
 女またなぶらえをわさくわたまふ娘君はひをけ
 なくはうぬきのすう入りかききてさひきくえ
 ねわといとあもりて竹ひぬへくまはちとまわて
 ちいほそれとがかりこわくらく通ておれり
 んとくちせうひてりてねよりことのかくち小結
 うきて中將の志しそやめねる
 母もあふとちの人のなくいこうあすり
 んせあいまちえあううなまてきぬまに
 自ひ毎よほくあて

ゆめてえそあひつうひん守くすはら
 人つらなくともゆりせりてさあわきねふ
 ひと減多くいうはくくと見新人のちう人のめ
 さぬきもあまなくおれゆはち連ふたわい
 思ひをさけん我もせいこう懸しうわあま
 さぬ城とうらぬもわはやくとらぬいきてま
 くらげなふはちとくめねひはたをまねね
 清らぬえあおがうわは蒸なふ人いかなどりお
 くはいでやなまらひあわいこまなり
 のとあまよんをあけりひりひりてあ
 も接もやうあまほくきふりりりりり

西美名... 前...

なまはるるたびごとく... 世めぬひのものをなほかや乃...

吾中... 河...

スグ...

すー... ちのき御寺... かりのゆ...

河...

過不及...

内心よわちてよもてたし事なく心とめやすくが
あひくる^{おほ}おほ^{おほ}おほけは^{おほ}願んじと^{おほ}な^{おほ}お^{おほ}願^{おほ}よ^{おほ}て^{おほ}か^{おほ}ま^{おほ}わ
もう^{おほ}地^{おほ}と^{おほ}け^{おほ}給^{おほ}ふ^{おほ}事^{おほ}事^{おほ}なく^{おほ}く^{おほ}く^{おほ}義^{おほ}法^{おほ}も^{おほ}て^{おほ}な^{おほ}一^{おほ}法
ま^{おほ}く^{おほ}ま^{おほ}か^{おほ}し^{おほ}ま^{おほ}じ^{おほ}ち^{おほ}ら^{おほ}ふ^{おほ}か^{おほ}ま^{おほ}ふ^{おほ}ま^{おほ}ら^{おほ}ひ^{おほ}て^{おほ}ハ^{おほ}中^{おほ}く
い^{おほ}ま^{おほ}め^{おほ}な^{おほ}ま^{おほ}て^{おほ}人^{おほ}い^{おほ}ふ^{おほ}け^{おほ}く^{おほ}ま^{おほ}なる^{おほ}る^{おほ}ら^{おほ}れ^{おほ}も^{おほ}あ^{おほ}る^{おほ}ま^{おほ}一^{おほ}
な^{おほ}ま^{おほ}さ^{おほ}ら^{おほ}ふ^{おほ}て^{おほ}ら^{おほ}や^{おほ}う^{おほ}よ^{おほ}あ^{おほ}り^{おほ}ま^{おほ}ん^{おほ}妙^{おほ}ん^{おほ}は^{おほ}ら^{おほ}う^{おほ}一^{おほ}け^{おほ}ま
ん^{おほ}ち^{おほ}す^{おほ}ま^{おほ}か^{おほ}ら^{おほ}思^{おほ}ひ^{おほ}ご^{おほ}一^{おほ}あ^{おほ}一^{おほ}ゆ^{おほ}も^{おほ}さ^{おほ}ら^{おほ}ら^{おほ}ひ^{おほ}一^{おほ}が
^{おほ}此^{おほ}は^{おほ}ん^{おほ}法^{おほ}ま^{おほ}て^{おほ}何^{おほ}り^{おほ}ま^{おほ}ぬ^{おほ}ま^{おほ}ゆ^{おほ}一^{おほ}ら^{おほ}ま^{おほ}て^{おほ}お^{おほ}ほ^{おほ}は^{おほ}ら^{おほ}
な^{おほ}ら^{おほ}ら^{おほ}び^{おほ}人^{おほ}ハ^{おほ}あ^{おほ}ら^{おほ}り^{おほ}一^{おほ}は^{おほ}く^{おほ}む^{おほ}ひ^{おほ}つ^{おほ}ふ^{おほ}あ^{おほ}ら^{おほ}る^{おほ}も^{おほ}有^{おほ}人
お^{おほ}も^{おほ}た^{おほ}ら^{おほ}一^{おほ}く^{おほ}ま^{おほ}一^{おほ}と^{おほ}思^{おほ}ひ^{おほ}す^{おほ}ら^{おほ}も^{おほ}お^{おほ}ほ^{おほ}く^{おほ}な^{おほ}ん^{おほ}あ^{おほ}り
ま^{おほ}は^{おほ}ら^{おほ}ら^{おほ}此^{おほ}は^{おほ}法^{おほ}お^{おほ}月^{おほ}ま^{おほ}さ^{おほ}ね^{おほ}ま^{おほ}ら^{おほ}ら^{おほ}う^{おほ}を^{おほ}給^{おほ}ぬ^{おほ}世^{おほ}の^{おほ}お^{おほ}も^{おほ}一^{おほ}

あり一は^{おほ}人^{おほ}な^{おほ}ま^{おほ}ら^{おほ}お^{おほ}か^{おほ}も^{おほ}き^{おほ}め^{おほ}お^{おほ}ほ^{おほ}一^{おほ}あ^{おほ}け^{おほ}ま^{おほ}
ま^{おほ}り^{おほ}一^{おほ}こ^{おほ}も^{おほ}わ^{おほ}給^{おほ}く^{おほ}ま^{おほ}一^{おほ}か^{おほ}ま^{おほ}ま^{おほ}お^{おほ}あ^{おほ}め^{おほ}此^{おほ}ま^{おほ}ら^{おほ}ら^{おほ}
ま^{おほ}は^{おほ}ま^{おほ}な^{おほ}ら^{おほ}一^{おほ}ら^{おほ}ま^{おほ}一^{おほ}て^{おほ}ら^{おほ}れ^{おほ}一^{おほ}と^{おほ}思^{おほ}ひ^{おほ}人^{おほ}お^{おほ}不
ら^{おほ}ら^{おほ}法^{おほ}氏^{おほ}此^{おほ}お^{おほ}一^{おほ}と^{おほ}思^{おほ}ひ^{おほ}ま^{おほ}ら^{おほ}お^{おほ}一^{おほ}ら^{おほ}ま^{おほ}法^{おほ}此^{おほ}
ら^{おほ}ら^{おほ}ま^{おほ}一^{おほ}ゆ^{おほ}つ^{おほ}り^{おほ}ま^{おほ}く^{おほ}え^{おほ}て^{おほ}こ^{おほ}う^{おほ}ま^{おほ}と^{おほ}ま^{おほ}も^{おほ}あ^{おほ}わ^{おほ}け^{おほ}ら^{おほ}ま^{おほ}
こ^{おほ}法^{おほ}ら^{おほ}ら^{おほ}く^{おほ}ま^{おほ}と^{おほ}思^{おほ}ひ^{おほ}く^{おほ}も^{おほ}わ^{おほ}が^{おほ}ま^{おほ}ま^{おほ}え^{おほ}あ^{おほ}け^{おほ}ま^{おほ}お^{おほ}は^{おほ}す
ま^{おほ}一^{おほ}い^{おほ}法^{おほ}と^{おほ}一^{おほ}ま^{おほ}わ^{おほ}い^{おほ}こ^{おほ}ま^{おほ}あ^{おほ}う^{おほ}お^{おほ}と^{おほ}ま^{おほ}く^{おほ}一^{おほ}ら^{おほ}
給^{おほ}ひ^{おほ}う^{おほ}を^{おほ}給^{おほ}て^{おほ}世^{おほ}れ^{おほ}ま^{おほ}法^{おほ}り^{おほ}ま^{おほ}と^{おほ}一^{おほ}法^{おほ}め^{おほ}く^{おほ}思^{おほ}ひ^{おほ}ま^{おほ}
給^{おほ}へ^{おほ}ま^{おほ}よ^{おほ}は^{おほ}ら^{おほ}く^{おほ}給^{おほ}を^{おほ}ま^{おほ}ま^{おほ}ら^{おほ}た^{おほ}て^{おほ}く^{おほ}法^{おほ}一^{おほ}法^{おほ}
ま^{おほ}ら^{おほ}ま^{おほ}一^{おほ}ま^{おほ}ま^{おほ}ひ^{おほ}と^{おほ}も^{おほ}な^{おほ}ま^{おほ}を^{おほ}た^{おほ}ま^{おほ}ま^{おほ}ら^{おほ}ら^{おほ}ゆ^{おほ}け^{おほ}ち^{おほ}て^{おほ}ま^{おほ}ら^{おほ}
ま^{おほ}法^{おほ}の^{おほ}あ^{おほ}ら^{おほ}法^{おほ}一^{おほ}か^{おほ}い^{おほ}も^{おほ}ら^{おほ}れ^{おほ}ら^{おほ}ん^{おほ}と^{おほ}お^{おほ}が^{おほ}は^{おほ}ら^{おほ}ら^{おほ}い^{おほ}と

法華のあはれ

今上皇ノ宣子
傳ノ三子ニイ
天ノ中ニ
ハチ
ハチ

あすくられ 桜の御りさなまもほ子と
むまふさてあむこま屋ふふあつひあけうひ
なふれとおふしー事うなふーくそおふやを
さぬよものへちかーけくろりなうてあまは
よもまあり入りくうへ月日星乃光スレ雲比た
はまひあわわうろく世乃人がたろくことかか
そちくのうんぐくふともまふふふあや
せりなてなぬさともまーいさわうらの
はらうろかん清人のうちりも
おがくさうるさあもあわきあ入るまふの言まの
娘りあやえりさうをた三月あはいとて

萬壽萬年世七
女ノ三子ニイ
天ノ中ニ
ハチ
ハチ

なうせあひあむがひり筆なとあわ院よ別れさうせ
あひーしやういといとけなて物ふくもわが
されさうしをいさうありあけきたるは気さ
なもあきいとありくありあふふ（上）い
かあひびらうはまーきうと（上）あふくはまわ
おはあきくーきあもあもあまらわはまの
あさうあわあふり侍らんも人やうてあま
ーさうおもしんあうらうてなんまうくろ
なともわきあうまわもとりあきさも付く
ひわふらあまてんのもう小若の清物種もな
おろひあふながうり現あふなるわわすくなく

侍て心ちわいりいふきてしてはよむあふ事と心と
よなかなきえ給世七もそおりのまじくあされと
いとわのくさうわよおりーまははまを神くうあ
しとえきとせ給即ち友へはくーまを給へしはくーな給よ
心進しく志しして月さ給るうを給しとてなふげよ
わくわ付はるよははくーしとえなどをまつひよわも
あとおささう勢給いざわらるるうとあうーうおりー
りーたわくくくはく給うおを給さそよ給同のり
ささせ竹ふ丹丹心はいつひの侍なやみまのうら
たゆえたわはるを源氏乃おもくもあかくおりー
りかこわ思中あまわりあまわいやとなくうんらをたまふも

のりーきりりおかしくあしとあーうてなりく
きう物もやえはき給りは侍心のうちよおりーはく
くはよこりきすくせ世はあへもあうふ人なくは
心乃うちよあうび思ふ事も人小まうわなあかど
おりーまうふ今上の夢乃中しよもあうはるひ
心をまうせ給もあとさひうよんをうーう兒きとせ
給てこまのうらーはめたくむははくまうるるり
よおりーをうあへまきんちー給うはわらうーはおか
やまかこさまよてもあかくあんとなき人乃あきとわ
おはぐきうを給なん事と人志進すおりーあげく
人志進ぬまうる給なくては給るなとおりーあうぬ

事あり年は根布しえくわはるはちとん

次ハ前ハ秘密トキキ

度更入すありぬおがうくわはるはちとん
内本根此許りしりてはあわらうまなどまうあつま
人々おむりひきて妙人いさるしき給さうあつびく
ままうめき遊月はなやまを給へあはん地入り
御をこあひを時の留まぬあまを給りせうを給
ほもわのいとまうを給りしを給りし
うはらうなわてはうりしなと地たまうまうを給
りなわ入りしまいたのみあなくなしせ給にたる
りとなきあげく人々おわり院の地遺言よりあ
ひそうち乃はうし給りつあうまわ給りしり年

丁云ハ前ハ相子
無毒病食
手云ハ口ハカキキ
トモ不なるト

はむりひえり得事おわしとあめつ巻てうん
あのみよをこくがあう地地もえりしきえんか
のえ乃とあし思ひ得るあをしかんあくらわ
くとほれしよのこまらゆるああのかくきああ
はりしへもまも屋わ給りしなき給うあといり
なとあうしよんよはあきあ入りと人あとおわ
りんきとりのしりわ此御あわあまを大うし此
せふは巻てもあうしきわしき人の地有換を
んよあなふりさなるまわけとめきえんか
あくううひなくおがさるあはあ
あううぬあなうしとまわけし給りし

まはるまはまはるまはまはるまはまはるまはまはるまはまはるまは
思ひ竹ふふりむかきむかむかむかむかむかむかむかむかむかむか
ふふ世中あらはるわはたむかむかむかむかむかむかむかむかむか
うくおりーまをばる流河小く流みこま侍りて世よ
付らんまはるものうわなきんちなんー付とききえ
おろとよとりー火なき乃きこいお屋うよてろて孫
ぬまぶいふひなく丸ーまき事とおりーあけく
ひえよりまはる乃程と空ゆる中も流んソくなを乃
世のためふもほま祿くおりまはる小おりーまてりり
かよまよよせて人乃うれへと何ふまとなをもをの
はるうらまーお流いさくつもさうやうりおし、の

法花云
如煙尽燈滅
まはるまはる
まはるまはる

象家
有千金徳
謂言象
足人ハ不思三人
ウレハエト

みまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
ひまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
すむるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
志竹ふ人なとせうー乃きりーまき世よんふまきくお城
こまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
りのえおふまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
ふまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
志流りまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
わーまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
思ふぬ人あーまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
わくわて物乃うんなをまの書なりこ流院のにおあ乃

夜居(夜)ノ格三
心アラハコトシハ
里三傳ニサケ

手車ラテドニムト
は物神トハ少カレリ
テトトトトト
キハトス(但カクノ
コス)ハ山トテトノ
キハラズニカタ
ウハロヒテ木持ア
ラハシトスリ

ヨルヤ
面白クし去氏人
キカヌカレバ

掃と清とんしとも花乃えんのわわなどおわいしは
ことしとるわりのひとわあち所て人此見とる
はへくまば清ひんするまうよこもわのあてひとひ
なましくうーたまふりのひもかあ入りうーて
屋まきふ乃本は急はういああ入り雲のうすくわと
まあが入りひさなあをなまうりもはめともまうぬ
うはなまといせ物あ入りおかさあ
入日さけ岸あうなひくうひ雲い物思ふ袖よ
色やぬういふ人きりぬともはなまはうひあし儼
わさなともせさそま事ともまはまわてえうと物心
かうくおわいしとわい入たのまは清母あまの清世

夜居(夜)ノ格三
心アラハコトシハ
里三傳ニサケ

うわつとらうとて清いのわ此師しとてさうひとあ
清都故宮あもいと屋んあとなくまうしあ物入り
あかりたわいしとわあやまもわもき清いおわえ
小ていりあうき清いともわわくたてて世あう
なまひりまかなまああう七十けうりよてその清の
なまあひ清さんとてこもわあうああの清う小
まわていせうらまうちうわあうーあわててうり
さあうもせあう此はハ形りとのごとくあうさあ
けうさまうーわあうさすめああをいあいよあ
あまういもさううおあえ侍まわあをさあまの
うーあまうりもわあああ心うーをうへてとて

五眼之帝釈梵
天王ノ眼見也
佛ハ五眼具足アリ
孟肉眼 天眼 慧眼
法眼 佛眼

寛延并供奉ノ
世三賢佛ノ
眼ニカケルアリ

さあめりし海りな海わつふり人もちのく
さありしむを海に海りてなと志ある程小こたいふ
うちの事はく事りるりかたうー一子つ身
てよ心と世うー一うこそあへてはけえ少もや
ほりあさらんと思妙へもろは事おかしくと
志海ー一めされぬおけえ後もくそ夫乃まあこおろ
りーく思ふ妙へらるるあをさる落ふむをびけ
い乃ら然りわねかバなる乃座くふれゆるむ佛もん
きさあーとやお仰免さんととりわ世うー一にて
えうちりてぬさとあわうんふりあとなむむ
世ううえのこほづく思ふ事座あらん法師ハ

ひーまとい海を海るきよこ換乃さひこあく
うこてあんなるものなをわがーてひけな
とまよわ海ておろふりなきをうこまはく思ひ
乃こされたる事有る座城なんほく思ひぬおと
乃座をす連をけふりーこさうに仏乃ひきめまわ
ねん母のうぶそちとさあくー一とむは
こくなくひろめけうー一まはまわまてんりく
あまとなます事あつてむむむむむむむ
はき入るりかろはるあをさひおかりーま
院幾はの乃きたるう世をまつわらるおと
はたあす入るうわてよあぬるうよあわあ

付らんうへは老法師の身よはたとひうれへ付ま
 ともなよなるをいつ付む佛天のは巻あふ小らわて
 繋うー付なわ南今わの悪もろもれおらーまーたうー
 とまもわあ宮乃ふかくおけーあげくるあわて何
 いろわばり入ま付らき結ゆへなん付ーまろーく
 法師のんよえさとも付るまどのくがひあわわて
 お紅いまよこへ此は紅いりわあなまひーま
 いまよくあまおれおれあてかうひては形をとも
 うをたまりわ付をわももきーあてなん
 又らうり事なくらんおがせらまて南今流くる舟ふ
 つまおりーまーまてはりーま付るりーも付

花のうけたなまりわー換とてをりーくおうゆるど
 き紅いーめひよあきまーうめつーりまておうりーう
 もりーうもさぬくーりはあぬみ運紅いくわと
 りわばりーへもあげまら務紅いすみおーし流紅いて
 ゑんなくおがーめぬよやとりつーりーう思ひて
 やまろーこまわてまう紅いおふお紅いりーとめておん心よ
 ちうてひぶおまーうはぼの世まてのやふめわあへ
 うわあはあと城紅いとまて志おひああー連たわあを
 なんあへわてーあめささんなわと思ひあふ紅い又け
 事なまわらもーりーあはたらひやあふんと
 のーあ紅いりさ紅いら紅いりなまろーとまお輝紅いとよわ

かの人の此^いあとの気さみこほゆるすうあふま
あん^いとあうりう^い侍^い天^いぶん^い侍^いと志^いまわり侍^い
一^い事^い侍^いのな^いぬ^いは^いげ^いな^いわ^いいと^いま^いな^いく^い物の
志^い落^い一^いの^いま^いり^いわ^いける^い程^いあ^い侍^い侍^いも^いや^いう^いく
御^いより^いひ^いた^いわ^いお^いり^いま^いして^いな^いふ^いこと^いも^いり^いあ^いま^いん
う^いせ^いあ^いつ^いま^いと^いよ^いり^いいた^いわ^いて^いも^いり^いあ^いま^いす^いな^いわ
ま^い落^い侍^い北^いと^いお^いの^い御^い世^いま^いわり^いま^いる^いふ^いこ^いう^い侍^い
か^いま^い河^い乃^い侍^いえ^いと^いも^い志^い落^い一^いめ^いさ^いぬ^いお^いお^いあ^いき^いに
ま^いわ^い思^いま^いへ^いけ^いち^いて^い一^いを^いさ^いり^いく^い後^いま^いわ
ら^い一^い侍^いぬ^いる^いこと^いも^いな^いく^いま^いき^い遊^いぶ^いを^いに^い何^いを
ま^いそ^いぬ^いま^いま^いを^いぬ^いへ^いい^いゆ^いめ^い乃^い愈^いう^いふ^いら^いう^いま^いき

古
院
東

こと^い城^いあ^いう^いを^い侍^いて^い色^いく^いり^いお^いり^いみ^いた^いま^いさ^いう^いを^い侍^い故^い
院^い乃^い侍^いた^いめ^いま^いう^い侍^いめ^いこ^いく^いお^いら^いる^いく^いた^い人^い
一^いそ^い世^いま^い侍^いく^いた^いま^いも^いあ^いふ^いこ^いう^いけ^いか^いり^いわ^いる^い
こ^いま^いり^いく^いお^いほ^い一^いな^いや^いえ^いて^いひ^いこ^いく^い後^いま^いせ^いり^いて
う^いせ^い一^い後^いは^いま^いい^いう^いま^いな^いん^いと^いま^い竹^いを^いお^いら^いる^いも^いお^いら^いる^い
ま^いそ^いあ^いり^い侍^いく^いる^い城^いは^いら^いん^いび^いる^いり^い侍^いま^いて^いも^いい^いと^いく^い
ま^いの^いひ^いこ^いく^いお^いり^いめ^いう^いれ^いて^い侍^い故^いの^いこ^いほ^いま^い侍^いを^い侍^い
め^いを^いお^い介^いり^いこ^い古^い宮^い乃^い侍^いあ^いと^いを^いひ^いま^いよ^いな^いく^いお^いり^い
め^い一^い侍^いる^い一^い後^いな^いま^いは^いあ^いめ^いわ^いと^いえ^いな^いり^いた^いま^いう^いま^い侍^い日^い
武^い部^い乃^い侍^いえ^いこ^いう^い侍^いた^いま^いひ^いぬ^い侍^いり^い一^い侍^いう^いひ^いふ^いり^い
い^いま^いく^いを^い侍^いの^いま^いは^いり^い一^いま^い事^い侍^いあ^いけ^いき^いお^いり^い

うわかれの跡なきはあはれいとあはれもえほふて
照らすはとさふくひ影ふたも座より海津物遣乃
はしそり世物つたぬるもやあむむも此心をうく
何あしぬん地心なんす心をあめ乃さもうくのどの
なるぬよも後傳あいたくしくなん心たた此おかくむ
はりりわてより世世百世此あとも思ひもさうりは連
いははん座は美しき山をさすぐ所まかりくおんと
あさらひさし影いとあはれまー美はあとなり世の
志傳りなるぬりなりなるびま傳りこしくはな紙をゆ
あめふりもよわゆるすきりー美せりーもあん
よーぬり世もゆるりひー望のえうとの世も

よいさよよれいさりてさることも後よりも付
くふ我くめいもさなん付すしてと年りわりよはひ
ともりついにわぬおとわたりあけく美事すあも
付すすなとす入ておかくのりともを写し影華か
りーまひあもさるいさりーや心ひもわも
く後き佛よりひよ座はし影くはあさちた心
とも後あしんもさるは清心い見えもおかりよあ
あとな心さるいさりーあしりり此後いよあまうよ
見えわたなきひはれあとりいあさあまれよわかり
あさるあま心いさりてこれりさうひあささるえりあさ
わがさるあま心ひりよりーたあくもわかりぬへまきり

鶴林土露云
人不通古今
馬牛襟裾

なまはわりのきほさちもあははるくもえうち
ひそまき路もぬわどいたるおかろ乃事ども
つよよわあもよならううやまはき路うちうに
まわぬくはふぬまていとけきをこもなな路あ
こ美人のほめゆはあやとてえきわたまうと
うくささく電きこ一免一たんとはわがさ
ざわくもうへハ玉帝帰入りくうたるうは
まかうおかめ勢といはらうよ一免ひ路らん
るりちりにくわわう此人もおもひまじ一免
おとるりいつでほれめう一ひやえてはきく
あは路り乃例をわわんあさかんもろおか

史記三秦始置莊襄
王子上即位三
一氏實八始自手
嫪毒呂不韋手
下二密通一

花云三奈后業平
密通一十レハ
陽成院中お金
十云リヤニリカ
記云心覽ニケル
十シトヤリ

光仁天皇 大御言
桓武 中務 宇多
世孫 即位

せきさうもつ舟もかきまはやく御学官を
ささせ給はらうく乃あを河流にるり
も流くよはわもれても志おひてもみだわは
しきといとおかろわわ日女もなうお清ん
し志る所あしたひあらんまてもうやうよ思ひ
たん事を六りてつるへ志るやう此あむ
あらすま一世の源氏又畑云大は小成てはよさ
みこあもなわ佐あもつよ路くふもあまの例あわ
くわ人あうのう一義よあまよせてうもやゆは
まこえう一なまよ路得ようおかろなな路のほさ
あに大政大はよ城路へままをうらくはさめ

中焙つ井で入りなんみうとおほしーよほすすらの
事ゆゑー一幾くえ給々係をおとしつとまはゆく
おぼろーうおかりてさうよおぼろまーきりーを了
五ー一給^係お院のほ心ごーあまふれと進乃は中小
とりりあまごおかりりーなりー位城ゆほらき給りん
事をおかりりーりーすなわにきわなよりうれは
んあうたあてをよもぬきふはのかり給らんた
りー乃清一をきてのまきりおかりりーは
まほりていぬほー乃給うさなわたりたるのと
が係をさふひよこもわりたるなんと思ひ給ふふ
つひは清事^事のむふらばら給うー妙^んはい

寛弘八年八月左大臣
藤原朝臣牛車
兼侍賢門上東
門出八
希例

くらおーうなんおかりりー大政大臣よなを給べき
さめあれと志りーとおがすと給あわてたは
く^後おそひて牛車ゆあうれてあまのて志給を
ほりとおあびーけなき物り思ひ給う妙
な派んこふあお給へまー給かりーの給りよまき
お中の清一し給と志給べき人なりー權^中中^一給云
大袖よなわてた大わうき給へ係をひまひとま
わりのなんになま事^事もゆつりてんさて乃あり
しもくま志給りなるあまよと給おかりりー給な
おかりりーめくろほよ古^板乃はたあふもいおかりりー又
うへ乃かくおかりりーふやめあ給みきわ給もーけ

なまにたまからぬことをもろくううううんとあや
しうわがうゑ常歸のえくけおのくうわ
あるとぬよう侍てさうーおりのまてあわらわ
わく対面ーおては^保をりものつ井てよ
露はけらもてともーおりーおるもやあわ
しとあなりー妙へと^命にうけてもまきーあさん
るをいーきこと入りわたりてう侍わつえ
うあともやとうくの御たちをあておわ
あけきたわー一覚きとゆあもひとこなる心
あくおはさーは有様なとほよきけいひあへを
おふ^{おの}女^{おの}おわいおかーもさるさ御お^{おの}なわ

サラニーロ
後物
メカ
ク
ウル
カ
モ
モ
パ

はよういゆわさまなとも思ふさあはあわ
あし妙くまはるる志けなまものりもせりーは
幾いえさうへ^お秋^おは^お二條院よまうてなま
えん殿の御一^お侍らひい^おさう^おく^おば^おりー
たまひてい^おははむ^おき^お乃^おわ^おさ^おあ^おて^おあ^おは^おう^おひ
ま^おる^おぬ^おは^おい^おと^おさ^おわ^おり^おて^おま^おう^お乃^おあ^お裁^お乃
い^おは^おく^おみ^おさ^おま^おさ^おは^お遊^おは^おげ^おさ^おり^おゆ^おり^おへの
事^おは^おさ^おは^おけ^おわ^おり^おさ^おう^おま^おて^おは^お袖^おも^おま^おは^おく
女^お御^おは^おあ^おさ^おわ^おり^おる^おお^おま^おや^おり^おあ^おは^およ^おひ
い^お乃^おあ^おは^おは^おら^おり^おさ^おう^おま^お中^おは^おら^おり^おき^おな^おま^おい
こと^おは^おを^お妙^おひ^おて^おな^おう^おて^おん^おな^おま^おい^おす^おひ^おき

昔の俗人のミツノハツカ
ニギニ

古今 花七モトク
秋ノ紀ニ思ヒタハシ
人ナシガメソ

かくして流さぬよくもてあし
めりき流有様もて流るうら
まうりを隔てあはれくさ
あくひもさふるりくれいと
なぬを心癒りて慰らわかな
らそりらよまわの流る夕
昔此流事いもり井底の空
ほれなどをささえいで流る
寄もかくれをいもやけり
さげよてうらま流るるも
まうりふなまあきそあは
すまひなやむいあはれ

古今 花七モトク
秋ノ紀ニ思ヒタハシ
人ナシガメソ

くまおしけきむのつふ
すまひなやむいあはれ
なくてわわぬえり
はきくしきこにつきて
くまおしけきむのつふ
待りかまにりあも流も
流るあまこくさほかん
あまこくさほかん
うらまあまあま
うらまあまあま
うらまあまあま
うらまあまあま

古今 花七モトク
秋ノ紀ニ思ヒタハシ
人ナシガメソ

ほつと孫ひらんかあをいふきうし我思孫くくはま
とていよひとほその妙ひふつがなりはみのなまよ
まはみゆ^{後物三カテ下心}程くくし思ひ妙くしるる
りーほくろふひよこる^花んー乃院よ物す人此
うこけりおろあくて心くあーうおかえりる侍
りーもを^心あーし思なわもて侍まは路を人乃おく
うぬなを^花我も人^花とえ孫へゆらめて心とこを^清は
屋なるま^{スミ}うくたあう人^心おわやを北^清侍ーし路
侍りま^心侍るま^心孫くひなごい^心ーもんりあ
まま^心はうなるま^心ま^心ーふ方^心は^心ま^心侍めあさ
乃^心侍るま^心おが^心路^心け^心ま^心の^心ひ^心思^心ひ^心る^心侍^心し^心路^心

と及おれしううせ孫くむやあとたよ此孫をきよひ
いりふりひあく侍るむとの孫む^心侍りーうて路
いーへもあけま^心ま^心わ^心や^心何^心なる^心う^心と^心て^心し^心く^心よ
いひ^心ぬ^心ま^心う^心ー^心孫^心侍^心ま^心は^心い^心う^心を^心乃^心と^心屋^心あり
い^心ま^心ま^心は^心か^心き^心わ^心お^心り^心ま^心じ^心乃^心こ^心ま^心の^心ち^心の^心世^心此
ほ^心と^心め^心も^心路^心り^心ま^心ま^心を^心て^心こ^心も^心わ^心お^心な^心ん^心と^心お^心り^心ひ
侍^心と^心ま^心の^心世^心此^心思^心ひ^心お^心ま^心侍^心へ^心ま^心し^心の^心侍^心ぬ^心う^心
ま^心は^心あ^心く^心ち^心お^心り^心ま^心侍^心ぬ^心ま^心れ^心敷^心あ^心る^心ぬ^心お^心ま^心ま^心
ひ^心との^心侍^心お^心お^心ひ^心ま^心ま^心い^心と^心ま^心あ^心ち^心を^心あ^心わ^心な^心う^心ー^心を^心
なく^心も^心あ^心城^心け^心ま^心お^心り^心路^心を^心う^心を^心孫^心ひ^心て^心侍^心る^心は^心な^心を^心

此のヒロケ 千公高
門心千公東海
久其子千定國
家八島侍家之ノ
破心丸ラ子氏ニ
ツロヒケリ千公カ
云クは門ヲ高ク大ニ
其子永ハハ史大夫ニ成ニケリ
アツル夫ハ夫ハ心
下心明ス中宮心カ
我獄司トシテ事ヲ行フ
隱徳多キガ故ニ我子孫家ヲオコスベト云ケリ
ハシテ定國大臣ニナリ

モロコシニハ一昔石
 赤い輪居人共春花
 満州作五十里錦
 障子阿ニ逢春
 不遊樂恐是無
 心人 樂天
 春の光の花
 秋の光の花
 時ニニハ秋の
 劉禹錫自古逢秋悲寂寥
 我言秋日勝春朝
 君不見大川下
 浪自急西風吹
 洞庭波木葉下
 時ニニハ秋の

つくははひとおかあなるなうなるうなるうーとと
 おとりのうのめおるふけりひひとかなさうき成よ
 きくはきてちめくくくへておぼはるるく
 ーあーこののう丸いさふもれもそ
 けさうなふゆふ乃ちふもちや乃気さよけきても
 こ波のりこも志持りーあまの花のりやー
 秋乃野はさうわどとわくよ人あささひ待るうあ
 へれは乃かよと心もあまうわわーいなるささめ
 ううわうさんなまも波うーあまの花はあーあよ
 志くものあーとりひりんめわやまきあとのはよれ
 娘のあをれをとわたてくおもてあつづきも時くよ
 又 又 又 又 又 又 又 又 又 又 又 又 又 又 又 又 又

つきてえびるふよあうけとそえさうるをとり乃色をも
 孫はもりあまう人得る孫せりあさ孫れ内あわとも

うむらうー娘の草をもんわりけしわいぶるなふ
 娘辺のむーなをもほまきて人小け鏡せさきんわら
 思ひふたけしけらあらけんよをゆるうむとやま
 孫小いおゆしゆくきこもくおほきをむかふたえそ
 けりーへあうきけいさうむもうさてあはわ
 いのう思ひわあはらんげよいつはなれたなよあや

伊弉册
 プラキ
 シカリーヤ

ーとささーゆあへまうるあけうあけうー
 露のるりうお思たえくれぬへけさあささけ

はまのむすこ

あびふの娘ひをばもいとらうなげな家ふえ志おひ
おんえ

きこえはなむとらを人志達以我身よ志むる
あまのゆふを志のひしきわわくも侍りしと
家へ娘よいたるのほりへへなあむむ志返えすと
おのりたるは氣さありこれつ井でよえうぬ娘をを
しつみまを娘よ志とせわなをへしきししひが
あとも志おほれたし志してとおほいしあも
しつりわよわの志んもりし志ううあふれと
おのりし人しそう志あけきたまへ志さまりこれ
ふりうなまあうしきと志おほらうそおのりなわ

ツラカシ人ノカニハ
ツラカシツラカシ
モノトミラカム

あまの志おほれたし志してとおほいしあも
しつりわよわの志んもりし志ううあふれと
おのりし人しそう志あけきたまへ志さまりこれ
ふりうなまあうしきと志おほらうそおのりなわ
あまの志おほれたし志してとおほいしあも
しつりわよわの志んもりし志ううあふれと
おのりし人しそう志あけきたまへ志さまりこれ
ふりうなまあうしきと志おほらうそおのりなわ
あまの志おほれたし志してとおほいしあも
しつりわよわの志んもりし志ううあふれと
おのりし人しそう志あけきたまへ志さまりこれ
ふりうなまあうしきと志おほらうそおのりなわ

梅の香ヲ探シ花ニ
白ハシテ折ノ枝ニ咲セ
チモヤナ
花ノ叶ニ原ノ草ノ花

シホシニカニマシ
ツノノ名ノ浦ニシテ
ノ一ノ上ニカニマシ
又シホシノカニマシ
又シホシノカニマシ
又シホシノカニマシ

はまのいざとあもふ心を
左心ニシテ上ノエリ後心ニホト
おぼしむとわたりてそのまぶ
左心ニシテ上ノエリ後心ニホト
たふぶんのはるに
おとほきそわたりて
左心ニシテ上ノエリ後心ニホト
あふらむふり
もてあふらむふり
つるわらふ家傳ちあわり乃
思ふなりかろくよそあど
うらうらうのたふさい
火ともろけ乃屋わぬ此か
わたりあふらむふり
めづらふおたがえまりと
左心ニシテ上ノエリ後心ニホト

此半面白
カハリ火ノ上カカ
カニシキハハニ
モユルカケリ
明石ノ上カノウキ
サハキテヨメルニ
源ハ下ノ風ニヨク
モユルカケリ
ハカヌラシメニ
ハニヤトシ

明石 いざわきーけきぬ
左心ニシテ上ノエリ後心ニホト
ぬあつわ火ハ
めづらふおたがえまりと
わきあぬーおかり
左心ニシテ上ノエリ後心ニホト
のうけハな
あふらむふり
なつて例
わらふ

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 lines, though it is significantly faded and difficult to decipher. The script appears to be a form of early modern cursive, possibly from the 16th or 17th century. The ink is dark but the paper is aged and yellowed, contributing to the illegibility of the text.

